

東建パブリニユース

平成30年 4月12日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

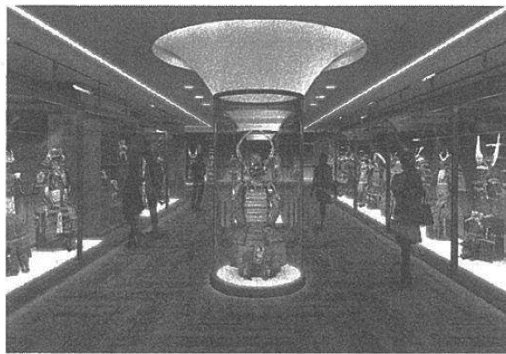
掲載 平成30年 4月10日 日本経済新聞 P. 33

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

刀剣の魅力を訪日外国人（インバウンド）に……。賃貸住宅建設・仲介大手の東建コーポレーションは、戦国時代をテーマに2020年、名古屋市内にオープンする博物館に刀造りなどの体験コーナーをつくる。訪日客の消費が「モノ」から「コト」へシフトするなか、同社が保有する文化財を観光振興に役立てる。

博物館は「名古屋刀剣ワールド」として、戦国時代に武將が使っていた名刀など200本や甲冑（かっちゅう）50体を展示する。同社は現在、名古屋市中区の白川公園近くで、高級賃貸マンション「栄タワーヒルズ」を建設しており、博物館は地上7階建てで隣接する予定だ。

東建コーポ



甲冑など集めた博物館はITを使ったショーなどが楽しめる（イメージ）

刀を鍛錬するときに熱した鉄を金づちで打つ様子を再現する。鉄を横したものを2人1組で金づちを使って一定のリズムで打ち、ゲーム形式で、一定のきた実績がある。

現する。桑名市の会員制ホテルに日本刀や甲冑の展示室をつくり、一般来場者に公開して

刀造り博物館でいかがが

訪日客の「コト消費」に照準

ただ日本刀などは同社の左石田総社長が個人で保有するものも多い。個人の収集品を公の博物館などが借りる場合、複雑な手続きが必要とされる。財団の管理に移行することで、より多くの人に鑑賞してもらおう狙い。コト消費を楽しみたい訪日外国人のニーズに応えられるとみている。

東建コーポは22年までに、名古屋城近くで高級ホテルを開業し、宿泊者向けに博物館や名古屋城をめぐるツアーも検討している。左石田社長は「今までになかった博物館をつくり事業として成立させたい。名古屋観光の一助になれば」と話している。

（浅山亮）